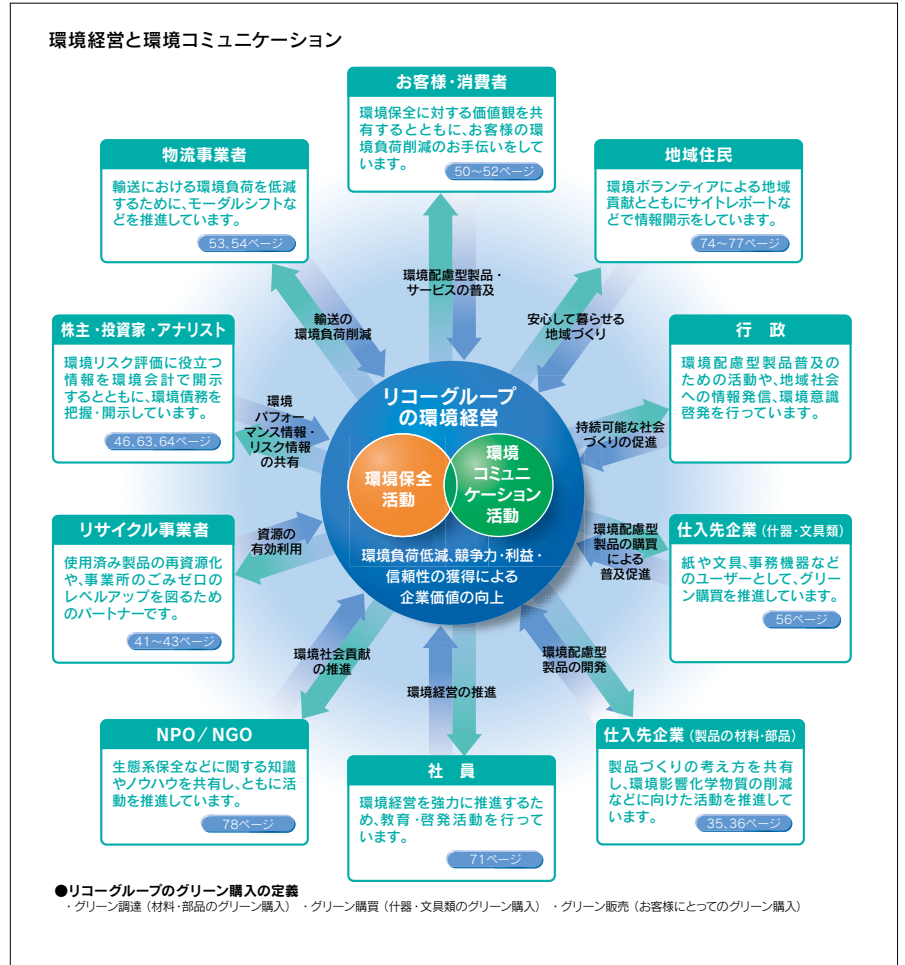


すべてのステークホルダーと真摯な姿勢で コミュニケーションを図り、環境経営の環を拡げていきます。

社会から成長と発展を望まれる企業であるためには、実際に環境保全活動を推進すると同時に、考え方や活動内容を多くの方々に知っていただき、社会からの信頼を得ることが重要です。また、活動事例を積極的に社内外に情報発信することは、さらに活動を促進し、持続可能な社会づくりにも貢献することになります。リコーグループは、環境コミュニケーションと環境保全活動は環境経営の両輪であるという考えのもと、真摯な姿勢でのコミュニケーションを通して環境保全活動の環を拡げていきます。



ステークホルダーコミュニケーション

Japan-CLPに参加

《リコー／日本》

2009年7月30日、リコーは、「日本気候リーダーズ・パートナーシップ(Japan-CLP)」の設立メンバー企業として参加を表明しました。Japan-CLPは、気候変動問題に対して、産業界が健全な危機感をもって積極的な行動を開始すべきであるという認識に立って結成された日本初の企業グループで、政策立案者、産業界、市民などとの対話の場を設け、アジアを中心に活動を展開していきます。メンバー企業は、持続可能な低炭素社会実現のための共通のビジョンのもとに自らのコミットメント

を掲げ、意識改革、制度構築、技術開発の3つのアプローチを進めていきます。リコーは、今後、自ら掲げる中長期環境負荷削減目標の達成に向けた活動を強化するとともに、Japan-CLPメン



バー企業との共通のビジョン実現のため、環境技術開発等を中心に協力していきます。

※1 Japan-CLP ホームページ <http://japan-clp.jp/index.html>

※2 ニュースリリース「リコー、Japan-CLPに参加」

http://www.ricoh.co.jp/release/by_field/environment/2009/0730.html

展示会への出展

《リコーグループ／日本》

2009年12月、東京ビッグサイトで開催された環境総合展示会「エコプロダクツ2009」に出展しました。リコーが目指す地球の姿を紹介し、環境経営に関わる技術や製品、取り組みについて総合的な展示を行いました。



メインステージでは、2050年の環境負荷削減目標の達成へ向けた総合的な施策と、生物多様性保全を通じて地球を元気にする活動について説明しました。

環境をテーマにしたCMの制作

《リコー／日本》

リコーはコミュニケーションツールを通して社会全体の環境負荷削減に貢献したいと考えています。2009年度は「仕事に強く。地球に優しく。」をキャッチフレーズにしたCMと製品や実践活動の地球にやさしい“ひと工夫”を紹介する「エコバナシ」シリーズCMを放映しました。



「エコバナシ」シリーズCM

- ・何度も使えるシート「RECO View」編
- ・電気を使わない工夫「台車」編
- ・保守サポートも自転車で訪問「自転車」編
- ・使えるパーツは大事にリユース「再生機」編
- ・水を使わない洗浄方式「ドライ洗浄」編
- ・無駄をなくして仕事もはかどる「文具姿置き」編

※1 TVCM紹介：<http://www.ricoh.co.jp/advertisement/cm/index.html>

※2 エコバナシ：<http://www.ricoh.co.jp/no1/ecobanashi/>

環境経営報告書の発行

《リコーグループ／グローバル》

リコーグループは、1996年度の情報を開示した環境報告書を1998年4月に発行して以来、毎年報告書を発行しています。2004年度からは、サステナビリティレポートとして、環境経営報告書、社会的責任経営報告書、アニュアル・レポートの3つの報告書を6月に発行しています。この「サステナビリティレポート2009」が、第13回環境コミュニケーション大賞（主催：環境省、(財)地球・人間環境フォーラム）で持続可能性報告大賞（環境大臣賞）、さらに、「環境経営報告書2009」が、第13回環境報告書賞（主催：東洋経済新報社、グリーンリポーティングフォーラム）で特別賞を受賞しました。



小沢鋭仁環境大臣から環境大臣賞の授与

環境サイトレポートの発行

《リコーグループ／グローバル》

リコーグループでは、地域とのつながりを重視し、行政、事業所周辺の住民、社員の家族などとのコミュニケーション手段として環境サイトレポートの発行を促進しています。2001年度には、「環境サイトレポート作成ガイドライン」*を作成し、グループ内で運用しています。

* <http://www.ricoh.co.jp/ecology/report/site.html>

環境Webサイトの公開

《リコー／グローバル》

リコーの環境Webサイト*1は、製品の環境情報や最新のニュースなど、調べたい情報を誰でも簡単に探し出せるよう、「見やすさ」「わかりやすさ」「使いやすさ」にこだわって制作しています。英語版ホームページも開設しており、各国の関連会社にもリンクしています。また、環境ホームページの中では、子ども向け学習サイト「Ecodayテンペル・タツルストーリー」*2を公開しています。リコーが支援する世界各地の森林生態系保全活動のストーリーや、楽しみながら環境問題を学べるクイズやゲームのコンテンツがあります。

*1 リコー環境経営Webサイト <http://www.ricoh.co.jp/ecology/>

*2 Ecoday テンペル・タツルストーリー

<http://www.ricoh.co.jp/ecology/ecoday/>



●Webサイトを訪れた皆様のご意見・ご質問に回答

リコーのコメントサークルや長期環境ビジョンについて、環境経営Webサイトを訪れた皆様からご意見やご質問をいただきました（Webインタラクティブアンケート実施期間：2007年12月～2008年10月）。数多く寄せられたご質問を抜粋し、お答えしています。

「環境経営のここが疑問！そこが知りたい！Q&A」
<http://www.ricoh.co.jp/ecology/contact/question.html>

ステークホルダーコミュニケーション

中国極環境戦略会議—「四位一体」の環境経営

《リコーグループ/中国》

2009年11月6日、中国のリコーグループ計17社は第3回中国極環境戦略会議（「四位一体」環境経営活動）を開催し、北京、上海、福州、深圳をテレビ会議で結び、合計220人が参加しました。メインテーマである「各社のCO₂削減活動成果」では、現場で実際に環境経営活動を実践する担当社員が事例発表を行いました。現在、中国では、経済の発展と環境保全をどのように両立していくかが緊急の課題となっており、中国において開発・設計、調達・生産、販売、物流の4つのステージでビジネスを進めるリコーグループ各社は、「環境経営なくして成長戦略なし」を合言葉に、環境保全と利益創出を同時実現する環境経営を推進するため、「四位一体」で協力していきます。



生徒、児童の環境活動を支援

《リコーアメリカズコーポレーション/グローバル》

米州の販売統括会社リコーアメリカズコーポレーション（RAC）は、「ISEF（International Science & Engineering Fair）」のメジャースポンサーです。ISEFとは、世界最大級の高校生による科学コンテストで、アメリカだけでなく世界50以上の国と地域から約1,600人の生徒が参加しています。RACは2005年から「リコー・サステナブル・デベロップメント賞」を設け、環境保全とビジネスの両立に寄与する研究に贈っています。2010年度の表彰式は、カリフォルニア州のサンノゼで行われ、最優秀賞は、Roshan Palliさん、Joseph Corbett Fergusonさん、Holly C. Ericksonさん、Ryan C. Ericksonさん、Robert Whitehouse（RAC環境部門ディレクター）でした。



（左から）Roshan Palliさん、Joseph Corbett Fergusonさん、Holly C. Ericksonさん、Ryan C. Ericksonさん、Robert Whitehouse（RAC環境部門ディレクター）

地域とのコミュニケーション

3イン1プログラム

《リコータイ/タイ》

販売会社リコータイ（RTH）では、小学校の環境活動を支援する「3-in-1プログラム*」を実施しました。このプログラムは、小学校の児童たちに、自由にテーマを選んで地域を巻き込んだ環境コミュニケーション活動をしてもらい、優秀プロジェクトに、RTHから賞金として活動支援金を授与するものです。審査員には地域の環境活動に携わる方々に協力いただきました。プログラムに応募したのは、RTHのお客様である、バンコク市内と内陸部の計7つの小学校で、児童数にすると合計で9,800人以上に上りました。活動の中身はさまざまで、微生物で水を浄化するペレットを作り、地域の人々と一緒に学校付近の水路を浄化するプロジェクトや、ごみを分別・販売した代金を地元の寺院に寄付する活動、市民のためのリサイクルアート作品の展示や、校内で使う有機肥料作りなどがありました。活動の進捗は審査員により、定期的にモニターされ、最終審査は2009年12月に行われました。その結果、Klongmakarmted Schoolの「紙ごみのリサイクル紙を利用したハンディクラフト作品展示および地域啓発活動」が一等賞を受賞し、他に4位までが表彰されました。プログラムの賞金総額は65,000バーツでした。

* 1つのプログラムに次の3つの目的を含めたという意。①お客様・地域との環境コミュニケーション、②企業の社会的責任、③環境への貢献。



RTHの環境プロジェクトに参加している学校の生徒とRTH社長Julian Fryett（後列中央）



プレゼンテーションをする生徒たち

地域とのコミュニケーション

リサイクルベンチデザインコンテスト

《リコー香港／香港》

販売会社のリコー香港は、香港青少年発展連合会主催のリサイクルベンチデザインコンテストに協賛しました。2009年7月11日、Tsuen Wan Plazaで開かれたコンテストでは、約400名の学生たちから寄せられたベンチを魅力的に変身させるアイデアの中から、ジュニアとシニアの各部門で優勝、準優勝作品が事前に選ばれ、実際に廃材を再利用して制作した完成品が披露されました。4台のベンチは、市民の環境意識啓発のための「グリーンマスコット」として公共の場に陳列されました。



「緑の大使」が小学校の環境教育を支援

《レニエオーストラリア／オーストラリア》

販売会社レニエオーストラリア (LAP) は、小学校での環境教育を支援しています。2009年7月8日、3名のLAP社員が「緑の大使」としてAshdale小学校を訪問し、子どもたちと対話を行い、環境保全の重要性を伝えました。その後、約80名の小学生と教師は、校内に約70本の植樹を行い、緑の大使の3名も植え付けを手伝いました。LAPでは、自社がお客様に提供する用紙を植樹によってオフセットする方針を掲げており、今回の活動はその一環です。



INTERVIEW

社員に
聞く

地域と社会を結ぶ双方向環境コミュニケーション

会社で学んだことを地域に、地域で得たことを会社に。
環境コミュニケーションの大切さを日々実感しています。

地域、行政の環境活動に対する貢献が認められ、
みのり賞*を受賞

福井県や坂井市から要請を受け、行政の環境推進活動に協力してきました。中でも、2007年から2年間は坂井市の環境行動計画立案委員会会長として、市民、行政、環境の専門家の意見をまとめるという大変な任務を授かりました。連日、就業後に住民や企業など多くのステークホルダーにヒアリングを行い、地域の環境保全における課題や問題をくまなく抽出し、坂井市の10年間の環境基本計画を立案することができました。会社の環境担当として培った経験や知見を行政の施策に生かし、地域に役立てることができ、大変嬉しく思っています。そして私の活動を理解し、支援してくれた職場に心から感謝しています。

福井事業所 福井総務グループ
シニアスペシャリスト
(環境・安全衛生/TPM担当)
伊藤 哲男



環境を学び、人とのコミュニケーションを学び、今私がしていることは、業務を通じて得たものです。会社で学んだことを地域に広め、地域との関わりで得たことを会社に還元する、それが私の行動の基本になっています。

* リコーグループ社長表彰。

●このインタビューのロングバージョンと伊藤哲男の活動実績をリコー環境経営Webサイトで紹介しています。
(http://www.ricoh.co.jp/ecology/communication/communities/01_01.html)